

ある外科医の独り言



全てを知ることの善し悪し

高 勝義

とある外来の日である。青白く元気のない顔をした患者さんが診察室に入ってきた。再来患者さんだが、自分のよく知らない患者さんである。一体どうしたのだろうかカルテを見るのだが、どうも難しそうな内容である。椅子に座ってもらい、「しばらくお待ち下さいね。貴方がどうされたのか、どんな病気でどの様な経過をたどったのか見ますので。」と言いながらカルテをぱらぱらとめくったのである。

患者さんは私とほぼ同年の60歳を過ぎた男性である。ある大学病院で手術を受けた後、当院で退院後の診察を受けるようにと紹介された患者さんである。大学病院からの紹介状には、小さな字で、びっしりと詳しい内容が書かれている。大変難しい手術であったが、手術後の経過はきわめて順調であったようである。

手術の内容は、主病巣の切除は出来たのであるが、リンパ節にも転移しており、手術の後の再発率は極めて高いとのことである。したがって当院でも厳重な術後の経過観察をお願いするとのことであった。それだけならいいのであるが、患者さんにも、リンパ節転移のあったこと、再発率の高いことが同じように説明したと記載してある。なるほどと思ったのである。

患者さんとの会話の中で、採血の結果はどうか、肝機能の中のある結果について悪くはないかとか、再発が心配で心配でたまらないとか言うのである。体格も良く栄養状態もまあまあ割には、生き生きとした活力が見られないのである。少し熱が出れば再発ではないか、検査データが少しでも悪ければ又どこか悪くなったのではないか、再発をおさえるためにはどうしたらいいのか等々、あらゆる本を読んで調べているようである。真に可愛そうな患者さんである。

大学での説明で、あまりにも詳しく説明を受けたために、手術の後にも再発の不安から逃れることが出来ないのである。医療とは不確定要素が真に多い領域である。リンパ節転移があったからといって、全ての人が再発するかといえばそうでもない。半年の命かと思った人が1年も2年も生存することもある。手術の後その人がどのくらい生きる事が出来るかは、医者である我々は全く分からないのである。まして患者さん自身が分かるはずがないのである。

知りすぎたために、せつかく残された時をびくびく過ごすよりは、知りすぎないで、安らかな気持ちで残された時間を有意義に過ごすことも大切なことではなかろうかと、この患者さんを見てしみじみと思うのである。

同年のこの患者さんには、医療の不確実性のこと、今は再発も何もないこと、もし悪くなった時にはきちんと対処してあげることなどをお話した。そして今後は病気のことには我々に任せ、再発の恐怖から少し離れて、少しでも心安らかに良い時間を過ごした方がいいのではないかと、アドバイスとも、励ましとも、慰めとも言えぬような会話をして診察を終えたのである。(山下病院 院長)

平成16年度住民参加型在宅福祉

サービス団体セミナー開催

日時・2004年10月15日(金)  
10:30~15:30

テーマ・介護保険制度  
見直しについて  
・住民参加型団体と  
社協との協働について  
会場・愛知県社会福祉協議会

10月の予定

- 1日(金) 会報「まごころ」発行  
児童デイ
- 2日(土) 児童デイ
- 3日(日) 定例会・勉強会/ケア検討会
- 4日(月) 「市民協愛知」幹事会  
「移動ネット愛知」理事会  
児童デイ
- 5日(火) ミニデイサービス
- 6日(水) 児童デイ
- 7日(木) ミニデイサービス・定例会  
サービス提供責任者会議
- 8日(金) 児童デイ
- 9日(土) 児童デイ
- 10日(日) ガイドヘルパー養成研修講座開講
- 10日~14日 ガイドヘルパー養成研修講座
- 18日~29日 ガイドヘルパー 施設実習
- 11日(月) 児童デイ
- 12日(火) ミニデイサービス
- 13日(水) 児童デイ
- 14日(木) ミニデイサービス (祝日)  
サービス提供責任者会議
- 15日(金) 住民参加型在宅福祉サービスセナ  
児童デイ
- 16日(土) 児童デイ
- 16日~17日 福祉とボランティア活動展(5校)
- 18日(月) 児童デイ
- 19日(火) ミニデイサービス
- 20日(水) 児童デイ
- 21日(木) ミニデイサービス  
サービス提供責任者会議
- 22日(金) 児童デイ
- 23日(土) 児童デイ
- 25日(月) 児童デイ
- 26日(火) 理事会  
ミニデイサービス
- 27日(水) 児童デイ
- 28日(木) ミニデイサービス (祝日)  
サービス提供責任者会議
- 29日(金) 自閉症在宅支援勉強会 (祝日)  
児童デイ
- 30日(土) 児童デイ

11月の定例会

「まごころふれあい広場」  
定例会：11月7日(日) 9:00~10:00

《報告》

痴呆予防講座閉講(市委託)

「受講され変わられた男性」  
人は人の中で元気に  
一宮市から委託を受けて当会が行った痴呆予防講座がこの程閉講しました。

受講生には、当事者のご家族、ヘルパーさん、施設の職員など様々な立場の方々と、高齢社会が痴呆社会であることを感じさせました。  
一日目のお話しは、名古屋市瑞穂区にあります大喜デイサービスセンター施設長の藤本さん。「人は人の中で元気になる」をモットーとされ、デイサービスという人の中で、その対応次第で痴呆の方に変化されていく様子を具体的に話されました。

不安にさせないこと

午後「母のいる場所」の映画上映会と講演会に参加、講演の中で「痴呆症は、不安になると何度と同じことを聞く。」  
その時、焦らず丁寧に応えないと相手はプツンし、痴呆特有の

地域密着で安心

犬山にあります「今井あんきの家」はまさしく安心して住み慣れた場所です。古く集落風習に沿った施設方針がグループホームや痴呆高齢者への理解を深くし、支援を得られている。家庭のような温かい空気が流れる場所でした。

普通の暮らしを

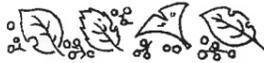
午後から訪問させていただいたのは、七月にオープンしたばかりの海部郡弥富町にある新しい「グループホーム森津」。  
ここは、介護度四と五の重い方も多く、介護者にとって安心の場所。二千坪の敷地にそれぞれ二百坪ずつの水田と畑、果樹園がある。収穫できる畑は、夕暮症候群に陥られる入所者の気持ちを支える。ホームは、各部屋から広い木製の

のデッキが開放されており水田からわたる風は何ともいえない。限りなく在宅での延長、ふつうの暮らし方をまもろうという施設長の姿勢が、スタッフの多さに現れていました。

「主人が翌日から変わりました」とご夫婦で受講下さった奥様から報告をいただきました。「今まで、何度言っても理解しようとしませんでした。こうした講座は本当は大切なことです。」  
と、受講の機会を得られたことを喜んでおられました。

感謝

この度、Dさん、Kさんからご寄付をいただきました。心から感謝申し上げます。大切に使用させていただきます。



8月会員登録	
協力会員	55人
利用会員	73人
賛助会員	113人
合計	241人

8月有償活動	
在宅活動件数	22件
在宅活動人数	36人
ミニデイサービス利用者	79人
移送サービス利用者数	258件
ふれあい広場利用回数	11回
謝辞活動時間	548時間

8月支援費活動	
訪問件数	28件
身体介護	173時間
家事援助	125時間
移動介護	42.5時間
日常生活支援	0時間
合計	340.5時間

8月介護保険活動	
利用件数	55件
生活支援	676.5時間
身体介護	607時間
合計	1283.5時間



ふれあい広場利用

- ・うさぎのパンやさん 毎週月曜日 (授産所を目指します)
- ・ふれあいのつどい 17日
- ・太極拳 毎週火曜日
- ・ピアノ教室 第2・4月曜日